

佳作
(高校部門)

城北埼玉高等学校 (埼玉県)

3年

ひらやま
平山

まさかず
将万

だから、相手の声を大切にすることができる

父

左の中耳と鼓膜の手術を小さい時からくり返してきたけれども、なかなか完治は難しいらしい。体調のすぐれない時は、本当に一生懸命に聴かないとうまく聞こえない。残響のような耳鳴りばかりが聞こえる。泣きたくなったところで仕方がない。しかし、父のこの言葉がいつも私を支えてくれている。誰かと話をする時はいつでも、私は相手の顔をしっかりと見ながら、相手の声の一つひとつを大切にしているそうだ。親馬鹿でありがとう。高校を卒業したタイミングで次の手術が予定されている。今度はかなり大きな手術になるらしい。しかし私は、相手の声を大切に
する気持ちを忘れたくないという一念である。